

令和四年度

奈良金春会演能会

令和四年六月十九日(日)午後十二時半はじめ

奈良春日野国際フォーラム壇
(旧称 奈良県新公会堂)

能 樂 木 一 ル
奈良市春日野町一〇一一番地
電話(〇七四二)二七一二六三〇(代地ル)

能 二人 静 仕 舞 山 千 兼
能 手 平 姥 手 平
大 小 笛 ア ワ ツ シ
鼓 鼓 鼓 ド (檀) テ (出)
キ (旅 後前僧) キ (勝手明神の神職)
キ (赤坂の宿の者) キ (熊坂長範の靈)
中 森 荒 赤 山 原 金 上 荒 赤 山 原 金 田 中 田 直 金
田 山 木 井 下 春 橋 田 本 山 千 五 郎 松 茂 金 春 飛 穂 雄 作 佑 之 陸 翔 高
一 泰 建 啓 守 憲 葉 幸 作 三 之 大 和 忍 樹 薫 千 五 郎

休

憩

一十分

狂言 魚 説 経
歌 養
仕 舞
占 老

キリ

太 大 小 笛 ア ワ シ
鼓 鼓 鼓 ド (檀) テ (出)
イ (赤坂の宿の者) キ (旅 後前僧)
キ (熊坂長範の靈)
中 森 荒 赤 山 原 金
田 山 木 井 下 春
一 泰 建 啓 守 憲
葉 幸 作 三 之 大 和

能 熊 坂

二人 静（ふたりしづか）

解説 中司由起子

吉野勝手明神の神職（ワキ）が、神に供える若菜を摘んでいた女（ツレ）に帰つてくるよう命じる。女が菜摘川のほとりで若菜を摘んでいると、一人の女（前シテ）が現れ、自分の供養をしてほしいと頼み、姿を消す。菜摘みの女が神職にこの出来事を話していると、先ほどの女の靈が菜摘みの女にのりうつる。女の靈は静御前であるとほのめかし、昔自分の着した舞の衣装が神社の宝蔵にあると言う。菜摘みの女がその衣を着て舞を始めると、静の靈（後シテ）も同じ衣装で女に寄り添うように舞つ。同じ姿の二人が舞う「序ノ舞」が見どころの一つ。吉野山における源義経の逃避行や、静が頼朝の前で「しづやしづ」の舞を舞つたことが語り舞われます。

熊坂（くまさか）

旅の僧（ワキ）が美濃国赤坂で一人の僧（前シテ）に呼びとめられ、武具ばかりが並ぶ持仏堂に案内される。やがて僧が消え去ると持仏堂も消え失せ、旅僧は野原にとり残される。赤坂の宿の者（アイ）から大盜賊熊坂長範のことを教わった旅僧が供養をしていると、熊坂の亡靈（後シテ）が現れる。熊坂の靈は、かつて陸奥へ下る途中の金丸吉次信隆の宿所を襲い、吉次の一行に加わっていた牛若（源義経）に討たれた有様を仕方話に語る。

二人の僧が対座する静かな前半の場面と、後半で熊坂が長刀をふるう激しい戦いの仕方話が対照的な曲です。

次回予告

七月十日（日）連合謡曲仕舞会

十月十六日（日）午後十二時半

能敦盛

能遊行柳

能金札

能紅葉狩

中田能光

金春康之

高橋忍

金春飛翔

後援奈良金春

主催奈良金春

後援奈良金春

（公社）金春円満井会

お問合せ電話

（〇七四二）三三一九七二〇 金春

五枚綴回数券

二〇、〇〇〇円

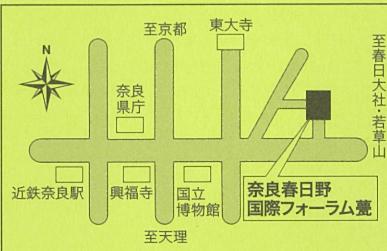
一般一回券

五、〇〇〇円

学生一回券

二、五〇〇円

◎鑑賞券（学生券を除く）は、奈良春日野
国際フォーラム甍で
も取り扱います。



奈良春日野国際フォーラム甍 能樂ホール

電話（〇七四二）二七一二六三〇代

・近鉄「奈良駅」から奈良交通バス市内循環
「大仏前」下車 東へすぐ

・近鉄「奈良駅」から徒歩二〇分

◎奈良県新公会堂は、平成二十七年から、奈良春日野国際フォーラム甍に改称されました。

◎特別に許可された人以外の写真撮影・録画・録音はお断りします。

◎携帯電話は電源をお切り下さい。また会話・飲食など他のお客様の迷惑になるような行為は御遠慮下さい。

◎奈良春日野国際フォーラム甍の駐車場は現在一般の方の車の受け入れをしておりません。

車でお越しの方は他所に駐車場をお求めになります。又 入場制限する事もあります。
◎満席の場合など 当日会場では入場券を発売しない事があります。
●入場時発熱状態の方は、入場をご遠慮いただきます。

●都合により、演者、曲目が変更される場合があります。

◎新型コロナウイルス感染症対策として

- ご来場されましたら必ずマスクを着用し、アルコール消毒の後、受付で記帳をお願いいたします。（万が一の場合の追跡調査用としてのみ使用いたします。）
- 入場時発熱状態の方は、入場をご遠慮いただきます。
- 会場の定員は五〇〇名ですが、新型コロナウイルス感染症対策として座席数に制限をかける場合があります。